

## 評価報告概要表

全体を通して(※このホームの優れている点、独自に工夫している点など)	
平成18年6月 奄美市名瀬大字大熊に開設された新しいグループホームである。 1 高齢者の幸せ、やすらぎ創り 2 地域社会とともに 3 高質の介護を目指して 4 未来社会を拓く という基本理念を基に、介護支援をしています。 「〇〇おばあ」と、ゆったりとした方言で、語りかけ、ぬくもりのある家庭的環境を大切に、入居者一人ひとりに、寄り添い、ゆったりとした生活が送れるように、職員は、介護支援を行っています。職員の「この仕事が、好きです」と、生き生きとした目で答える顔が、印象的であった。	
分野	特記事項(※優先順位の高い要改善点について)
I 運営理念	運営理念を重要事項説明書に明示され、ホーム便りなどで、啓発に努力されることが、望ましい。 また、理念を、分かりやすく、見やすい表示の仕方を工夫することが、望ましい。
II 生活空間づくり	開設間もないので、入居者の介護支援を優先されているのは、仕方のないことかも知れませんが、入居者の方々が、馴染みのものを活かして、その人らしく過ごせる部屋作りや、残された時の見当識の力を見極めながら、それを活かしやすくするために、見やすい大きなカレンダーや目の高さの日めくりカレンダー等を作成されることが望ましい。敷地内は、整備の途中であるため殺風景に見えるので、玄関に親しみやすい表札やプランターに花などを植え暖かい雰囲気作り、配慮されることが望ましい。
III ケアサービス	緊急時の対応に自信がなく、不安を抱えたまま勤務につくことのないよう、定期的に研修を実施して、全職員が応急手当を行えるように学習されることが望まれる。 摂取カロリー、栄養バランスについて同系列法人の栄養士に相談され毎食の栄養バランスの把握に努められることが望まれる。 ミーティングで、職員の気付きや意見を出し合って、実施可能なケアプランを作り、全職員が把握することを徹底する仕組みを作ることが、望まれる。 金銭管理ができないと、決め付けずに入居者一人ひとりの力量に応じて、買い物などで、支払い体験を支援されることが望まれる。
IV 運営体制	洗剤、薬剤の管理、包丁の管理に、もう少し危機感を持つことが望まれる。 入居者と地域の方々との交流の場面作りや、ボランティア、研修の受け入れを積極的に、地域に開放されることが、望まれる。 市町村との関わりは、グループホームの事業の推進にとって重要である。日頃から連絡を密に取り、グループホームの実状やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築いて行くことが望ましい。個別のグループホームの働きかけに止まらず大島地区のグループホームと協力しての働きかけなど、一歩進めていかれることを期待したい。

分野・領域	項目数	「できている」項目数	
		外部評価	
I 運営理念			
① 運営理念	4項目	2	
II 生活空間づくり			
② 家庭的な生活環境づくり	4項目	2	
③ 心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	4	
III ケアサービス			
④ ケアマネジメント	7項目	6	
⑤ 介護の基本の実行	8項目	7	
⑥ 日常生活行為の支援	10項目	9	
⑦ 生活支援	2項目	1	
⑧ 医療・健康支援	9項目	8	
⑨ 地域生活	1項目	1	
⑩ 家族との交流支援	1項目	1	
IV 運営体制			
⑪ 内部の運営体制	10項目	9	
⑫ 情報・相談・苦情	2項目	2	
⑬ ホームと家族との交流	3項目	3	
⑭ ホームと地域との交流	4項目	1	